

## 第2回滋賀の生涯学習社会づくり推進協議会における会議概要

期日：平成22年2月8日（月）14:00～16:30

場所：県庁本館4-A会議室

### 1. 開 会

○あいさつ（生涯学習課長）

### 2. 議 事

(1) 前回の協議会の論点の整理について

(2) 本県における生涯学習社会づくり推進の現状と課題について

○生涯学習県民意識調査から

○社会教育関係団体等ヒアリングから

○現行の「滋賀の生涯学習社会づくり基本構想」実施状況＜県の施策＞から

(3) 「滋賀の生涯学習社会づくり基本構想」（第4次）の骨格と基本的な考え方について

(4) その他（今後のスケジュールについて）

### 3. 閉 会

#### 【出席委員】（五十音順）

内田委員、宇野委員、大河委員、加藤委員、金森委員、神部委員、熊田委員、桑名委員、清水委員、谷口委員、西岡委員、藤井委員、堀委員、宮田委員、吉久委員

### 1. 開 会

○生涯学習課長あいさつ

### 2. 議 事

(1) 前回の協議会の論点の整理について

#### ◆事務局説明

第1回滋賀の生涯学習社会づくり推進協議会の論点の整理

生涯学習推進本部関連事業について

（委員からの質問特になし）

(2) 本県における生涯学習社会づくりの現状と課題について

○生涯学習県民意識調査から

#### ◆事務局説明

生涯学習県民意識調査結果速報について

○社会教育関係団体等ヒアリングから

#### ◆事務局説明

社会教育関係団体等ヒアリング結果について

○現行の「滋賀の生涯学習社会づくり基本構想」実施状況＜県の施策＞

#### ◆事務局説明

「滋賀の生涯学習社会づくり基本構想」実施状況＜県の施策から＞について

(会長) 説明いただいた資料をもとに、滋賀県の現状と課題について、感想、意見、質問などご発言をお願いしたいと思います。

(委員) 意識調査の速報から、全国的に滋賀県の学習率は高いことが分かります。ひとつ質問ですが、集計の補正というのはどういう方法でされているのですか。

(事務局) 対象者を抽出する際に、地域別の対象者数をそれぞれ一定確保するために行ったもので、具体的には湖西地域を2倍のウェイトで抽出しました。そのため、集計の際には、他の地域の集計ウェイトを2倍にして補正しています。

(委員) 「生涯学習による生活の充実」は面白いデータですね。生活の充実度に生涯学習がどの程度関わってきているのかについて、明確な数字が出ているので、今後生涯学習を積極的に進めていく意味が見えてきます。

(会長) 関係団体のヒアリングもしてもらっているが、現状は厳しいと受け取っていいのでしょうか。

(事務局) 財政的なことや会員の減少などがあり、これからの運営について様々な問題があります。

(会長) それぞれ大変なようですが、意欲をもって活動を展開していこうという様子が窺われます。行政に対しては協力、協働を希望されているというところでしょうか。

(委員) 県民の意識調査の結果速報の資料は、コンパクトにまとめてあって分かりやすいと思います。特に、年代別の生涯学習の姿は現状がよく反映されていると思います。滋賀県のレイカディア大学で5回講義をしましたが、確かに60歳代は仲間づくりに関心の高くなる年代で友だちや仲間を作るためにレイカディアに来た、70歳以上は学習活動に熱心な年代で講義が終わってからも質問に並ばれる。これを直に見ていますので、60代・70代の様子はよく抽出できていると感心します。レイカディア大学は残念ながら閉じられるということで、そこに来ていた60代、70代の方の学習活動を心配しているのですけれども、滋賀県内の大学コンソーシアムで受け皿ができないかという感想を持っているところです。

質問がひとつありますが、生涯学習・社会教育に関わっていただく専門的な人材として、社会教育主事・社会教育委員がいますが、減少しているのはなぜなのでしょう。また、減ることによって生涯学習支援活動への影響はあるのでしょうか。

(事務局) 派遣社会教育主事制度は平成18年度に終わりました。滋賀県の場合はもともと町への派遣のみで、市には派遣しておりませんでした。市町合併により町の数が減り、それに伴って減少していったものです。社会教育委員も市町合併で自治体数が減ったためです。減少により、生涯学習支援や活動へのきめ細やかさにかけてくるかと思います。

(委員) 調査結果の「学習の目的」をみると、自分のためという回答の割合が高く、これは地域や社会につながるような学習とは違いがあるように思います。レイカディア大学も、ほとんど公費で運営しており、受講者には卒業後は地域でリーダーとなって活動してくださいと言っています。生涯学習を考えるときに、自己を高めるといふ活動について、どこでどういうものを用意するのか、各自負担する方向も考えていかねばならないと感じました。レイカディア大学もどのように続けていくかということですが、県の財政的な状況が厳しいなかで、機会は設けるが、受益者負担ということをしっかり出さないと運営は難しくなっています。個人の自己実現というものと、社会活動・地域活動に学習をつなげるものとを区別して、支援や機会をある程度違った形で用意する必要があるのではないかと調査結果を見て思いました。

調査結果について確認ですが、「今後大切だと思う学習課題」とは、自分がしたいものを答えられているのですか？それとも生涯学習という意味合いでどんなテーマが大事かということで答えられているということでしょうか。

(事務局) 今後したい学習の分野は別の設問で聞いており、それとは別で、一般に大切だと思うものを答えてもらっています。

(会長) もう10年、20年前から、学習は受益者負担という方向で進んできていると思います。

年代別にはっきり学習の姿が表れており、20代は職業に関わることが多いということです。全体的には生きがいを中心ですが、詳細に見ていくことが必要だと思います。

質問ですが、男女の役割分担意識にとらわれない人の割合は下がっているということですか？また、職業能力の向上のところの説明で、それぞれの分野で取り組みはやっているけれども、生涯学習として全体のコンセンサスのもとにやっているかどうかという話がありましたが、私も全体が生涯学習という中で位置づけられているのかなという疑問を持ちました。現在の構想の体系のところには「協働」の文言があつて矢印で図示されていますが、協働でやっていくシステムがすでにあるのでしょうか？

(事務局) 男女の役割分担意識にとらわれない人の割合については下がっているということです。

協働についてですが、庁内の組織として、生涯学習を意識して各分野で進めていくこととし、それを進行管理する推進本部がありますが、広く県民やNPOなど入った全体としてのものはありません。現構想に図示している「協働」は、個別で協働を図っているということです。

(会長) まだまだご意見あるかと思いますが、次の議事3のところを出していただければと思います。

### (3)「滋賀の生涯学習社会づくり基本構想」(第4次)の骨格と基本的な考え方について

#### ◆事務局説明

#### 基本構想の骨組みと基本的な考え方をつくるための「たたき台」(資料6)

(会長) 前回協議会で皆さまにいただいた様々なご意見や、社会教育関係団体ヒアリング、意識調査結果などを盛り込んである資料をたたき台として、もっとこのことが必要ではないかなど、それぞれのお立場からご意見をいただきたいと思います。骨組み、基本としてここにこれは必要であるや、こういうことは必要でないなど。これが一番中心ですので、できるだけ最後まで時間を取りたいと思います。よろしくお願いします。いかがでしょうか。

(委員) 県民の意識調査結果速報を見させてもらって、やはり「環境学習」を50%以上の人が今後の学習課題として挙げられている。40歳代、50歳代で最も多くなっており、今までの県をはじめとする活動が功を奏しているかなと思います。もっと勉強したいというのは、やはりグローバルな視点でも皆さん方が考えられた一つの大きな結論かなと思います。環境問題というのが「社会的課題の解決に向けた学びと活動」の一つとなっていますが、自然環境も含めて、動物の生態系、植物の生態系、森などにつながっていくというグローバルな観点を、キーワードや学習の中の分野として考えてみるというのはどうでしょうか。生態系とか、琵琶湖を守るという話もそうでしょうけれども、あるいは、そこに自然と人間の活動といえますか、野外活動なども含めて一つの大きな柱として考えてはどうかと思うのですが。

(会長) 地域に結びついた学びと活動というのは滋賀県の特徴の一つでしょうが、それも含めて、滋賀県らしさのようなものももっと出てくると思いますので、環境先進県として、環境学習を生涯学習の中に大きな柱で位置づけることはいいと思います。

(委員) 現在の構想でも環境学習は一つの柱でした。

(会長) 現構想で言うところの環境学習の推進よりももう少し発展させた形に柱を作つてということですね。

(委員) おそらく40歳代、50歳代の方は知識等はある程度までおありだと思います。そうすると「今後」の課題としてということでは、たとえばクリーンエネルギーなど広い意味の環境問題となるのではないのでしょうか。

(委員) 今日、本校で、地域の人が昔の暮らしの道具などを持ってきて子どもたちに暮らしぶりを教えるという学習をしました。暮らしについて世代をつなぐ学びです。昔の生き方や環境を大事にして一つずつ丁寧にやっておられたことを子どもが学びました。一方このような取組の様子を見ていますと、忙しくて学習が途切れがちな30代の子育て中の親御さんたちが、次の世代にどのように繋いでいくのだろうかと感じました。生活そのものの地域に根ざした部分での繋がりというものを考えたときに、やはり、環境や生活の質や人間らしさということに視点を置いた学びというのは、滋賀の中では誇りになると思いますし、「循環型」ということは、大きな話としてもいいし、世代をつなぐという部分でもすごくいいキーワードになるのではないかと思います。

(会長) 中教審の答申でも「知の循環型社会」と言われている。「循環」「継承」「サステナブル(持続可能)」といった概念はどういう形で出したらいいのか、「つなぐ」というような言葉を出せるといいですね。

(委員) まず、この構想がどういう位置づけなのかを考えなければならないと思います。上位計画の滋賀県基本構想や教育振興基本計画との関連を考え、目的を達成するためのものでないといけない。「人の力を活かす」「学び合い、支え合う」ということが重要なキーワードになっているので、これをしっかり位置づけたものにする必要があります。

環境学習を大きな柱として位置づけることも賛成です。

それから「子どもの生きる力」「社会全体で子どもの育ちを支える」など子どもの問題もきちんと押さえておかねばならないと思います。たたき台ではどこにも出ておらず、積極的に取り上げる必要があると考えます。学校支援のことも含めたものを位置づけておく必要があります。

もう一つ位置づけるべきキーワードは、「共生」だと思います。

たたき台では「学び」の視点しか見えてこないのですが、現構想でも「生かす」がきちんとできていないのは不満に思っています。生かす人間が増えていくことが生涯学習社会となっていきます。「生かしの視点」をきちんと位置づけてほしいと思います。機会の提供、情報、評価、成果を生かすことがバランスよく位置づくことにより総合的な施策になります。地域の専門の人が減っているなかで、民間の指導者が各分野を支えている状況です。それらの人をどう位置づけるべきかも課題です。

(会長) 「生かす」ということは、従前から、滋賀に限らず日本全体の課題です。生かす方法は難しいですが、生かせるよう取り組んでいこうということの基本姿勢としていくことでご意見をいただきました。

(委員) 意識調査の結果を見ての感想ですが、自分も時間がない30歳代ですが、若いときは自己啓発のために講座など参加していました。30歳代は時間も、お金も余裕がない。どちらかというと助けてほしい年代だと思います。年配になると余裕が出てきて、地域や周りを見ることができるようではないでしょうか。「生かす」ということについてですが、助けを求めている若い層が自分のために生かしたいのはある意味当然のことだと思いますし、年配の方が若い層のためにという流れができればいいと思います。助けることはできなくても、経験を生かすことが大切で、すぐに結果がでなくても、長い期間で見えていくといいのではないのでしょうか。

(会長) 生涯学習は広い概念で、いつ生かすかも長い目でみていく必要があると思います。

(委員) 生かす、生かし合う、共生は非常に大事なことだと思います。生涯学習とはいつから始まるのだろうか、意識調査の対象を見ながら、子どもや学生はどうなのかと考えました。子どもたちは、学校だけで学ぶのではなく、地域で学ぶことが大きな力になり、達成感や自己肯定感を育むことにつながります。

子ども同士や学生といっしょに活動をすることがありますが、子どもたちは高齢者や若い保護者にパワーを与えてくれます。学校教育と社会がもっといっしょに結びつき広がらないか、仕組みをどうやったら作れるのだろうかと考えます。

(委員) 地域での交流としては、幼稚園の保護者と女性団体が料理教室を通して交流をしたり、子ども会が森林について大学生と交流したりしています。地元での公民館単位等での活動が、県全体の大きな中での活動につながるか、広がるかなどの課題はあるかと思います。個々の活動の広がりやつながりが難しくなっていると感じます。個々の活動に対するいろんな支えを構想の中に入れてほしいと思います。

(会長) 成果を生かすことは助け合いでもあり、地域の活性化につながることでと思います。

(委員) 「情報」の観点からいうと、講師と学びたい人を結びつける、学習情報、講師情報を提供するのが学習情報提供システム「におねっと」の目指すところであります。普及啓発が行き届いていなくて残念に思います。携帯、パソコンが普及している現代社会では、情報格差が問題になっています。10～30歳代は生まれたときから情報機器が存在したデジタルネイティブ、40歳代以上のアナログ世代はデジタルイミグランス(移民)と言われています。使いたくない、使えない、インターネットがないなど情報格差が広がっていて、学習環境の提供をどうするかが問題になっているなか、今後5年間で情報格差はますます広がっていくと考えられます。図書館でおばあさんが本を探していて貸し出し中だったことを、自宅で検索できますよと教えたのですが、パソコンがないと言われたことがあります。情報社会の恩恵を受けていない人に情報を伝えていくか、情報格差の解消に向けての整備が必要な時代となっています。

(委員) コーディネーターについてですが、地元でホテルを飛ばそうという会があり、小学校の環境学習で3年間活動を進めたのですが、自治会を巻き込んだ大きな活動になりました。このような動きを見て感じたのは、仲を取り持つ人が必要だということです。高齢者の人はいろいろと情報を持っているがパソコンは苦手で、これはこれで学習してもらうことも大切なのですが。

(委員) 生涯学習は、学びを生かす道筋が見えていないと思います。公民館のサークル活動ですばらしい活動をしているのですが、活用する受け皿づくりができていない。生涯学習がまちづくりにつながるということが構想に書かれるといいと思います。はっきりしたことばとして、「人づくり」「まちづくり」と書いていけるようにしたいと思います。

(会長) 書いてあるだけでなく、動かすシステム、実際の装置が必要ですね。日本人は学びが好きで、それを生かすことはあまりしないとよく言われます。スムーズに生かすことができる装置が必要。

(委員) 滋賀方式として、動かざるを得なくなる仕組みを5年間で研究開発をして、モデルを広げていくこともできますよね。

(委員) 「生かす」ことを目標に設定するのなら、仕組みだけでなく生かす場についても考えないといけないと思います。講師となることだけが「生かす」ではないと思います。朽木に来て学んだことと都会の生活がかけ離れてしまうことがあります。まちに帰っても生かせる学びを提供することが大事だと考えます。家族に話したことも生かすことになるし、自分の生活のなかにもちょっとでも生かせれば、と思います。「学ぶ」「生かす」と単に書くと重荷になる気がしますので、生涯学習は誰にでもできる、誰でも気軽に生かせるということを伝えられたらいいと思います。

(委員) 人権研修で企業、団体に行っています。自分の学んだことを新たにプログラムに入れて話をしに行くが、研修を受ける現場は数年前と較べてそんなに高まっていないと感じます。以前の研修成果が生かされていないのです。学んだことを、次の日、次の瞬間に、地道にちょっと生かせるようなものが生涯学習ではないでしょうか。

また、生涯学習どころではないという切実な家庭や人をどう組み入れていくかも考えないといけないと思います。

これからデジタルに弱い高齢社会になっていきます。デイサービスに来ている人への人権研修で、子どもに伝えられることを尋ねたら「ずっとこの地域で育ったから校歌を教えてあげよ」と笑顔で答えられた方がいらっしやいました。高齢者の生きがい、笑顔の見られるような視点が加えられるといいなと思います。

(会長)「生かす」、「職業」、「実行する」など参画型学習、各論になるといろいろ出てきますが、それらを包括したものを考えていきたいですね。「生かす」というのは、講師をするだけでなく、いろいろな方法で実行するという含むものと捉えるということですね。

(委員) 外国人に対して、どこで何をしているという情報提供はどのようにされているのでしょうか。外国人を対象とした催しを、日本語で発信されても分からない。スペイン・ポルトガル語等のHP発信を考えていますが、いろんな言葉で発信することが必要だと思います。

(会長) 情報の共有、新しい情報の発信の仕方など、各論ではそれらも押さえた中での基本構想にしていきたいと思います。

(委員)「学びを暮らしに生かそう」「学んだことを暮らしに生かして社会に循環させよう」というような言葉を使ってはどうでしょうか。

他府県で、循環型の仕組みでうまくいっている事例があると聞いたがご存じですか。学んだ人が講師になり、地域で教えていると聞いたのですが。

(関係課) 職人を育てる大学として、金沢に社団法人金沢職人大学校があります。学んだだけで終わるのではなく、職につなげていくもので、歴史都市金沢の歴史遺産継承に生かされていくような科目が設定されています。

(委員) 福岡県で、高齢者が公民館で学び、講師になり地域や学校へ、というのがあります。学びを生かすためのコーディネーターを県が設置し、運営は地元がやっています。

「生かす」ということにも誤解があると思いました。講師になるだけでなく、多種多様な生かし方があります。ただ「自分に生かす」はどうかと思います。「生かす」というのは、学びの成果をみんなで社会の中で共有するというイメージで、学習シェアリングや、充電と放電のシステムが必要だと考えます。

(委員) 人に教えたい、教えたいとうずうずしている人はたしかにいます。

(委員) 婦人会やシニアの団体がなくなった自治体があります。団体は、心からやりたいということをやっているというより、行政に使われているのではないかという感じのほうが勝っているようです。行政と地域の人を結ぶコーディネーターが必要ですが、本当に地元の住民と行政の中間的位置にいないといけないと思います。学びたい、社会とつながりたいという方がいらっしやるのはひしひしと感じるのですが、そういう思いを出せる中立的なところがありません。10年間、住民でやっと地域が見えてきました。退職後に地域に戻っても見えないと思います。地域のことが見えるようにすることが大事だと思います。

(会長) 連携・協働という思いが強すぎてうまくいかないわけですね。

(委員) 学ぶ・生かすの道筋が見えないので、それぞれの役割をはっきりさせることが大切だと考えます。はっきりしない部分や、つながりにくいところのつなぎ役が行政の担う部分ではないかと思います。行政が先頭に立つ部分とそうでない部分がある。みんなの税金をどのような方向につき込むかであると思います。

(会長) 生きてくる、動くような基本構想にしたいですね。いろいろなご意見ありがとうございました。

(4) その他

◆事務局説明

今後のスケジュールについて

3. 閉 会